



サーキュラーエコノミービジネス 実践企業

姫路商工会議所では、新しいビジネス機会として、持続可能な社会の実現に向けて資源を無駄にせず循環させる「サーキュラーエコノミー」の経済システムに注目しています。このコーナーでは、サーキュラーエコノミーに関するビジネスに取り組んでいる事業所を紹介します。

株式会社 広野鉄工所

デジタルものづくり技術で広がるアップサイクル事業

株式会社広野鉄工所について

株式会社広野鉄工所は、昭和37年に石材加工機の製造から事業を始め、産業機械や金属部品、石材加工品の製造へと展開してきました。平成10年には、これまで培ってきた技術にデジタルな手法を組み合わせ、オーダーメイド表札や看板の製造・販売を開始。素材や形状、書体にこだわったオリジナル製品が好評をいただいているます。

近年、住宅着工数の減少が見込まれる中、表札市場の縮小が将来的に懸念されます。そこで、新たな収益源の確保と地域社会への貢献を目指し、工場内の遊休スペースを活用した新規事業に取り組んでいます。それが、3Dプリンタやレーザーカッターなどのデジタル工作機器を備えた「デジタルファブリケーション施設」の開設です。この施設は、外部のクラフトマンにも開放しており、利用者がそれぞれの技術やアイデアを持ち寄って新たな製品づくりに挑戦できる、共創による新たなものづくりの場としました。

サーキュラーエコノミーの取り組み

この取り組みの中で、私たちは地域資源を活かしたアップサイクルにも取り組んでいます。アップサイクルとは、廃材や不要品に手を加えて、元の製品よりも価値の高いものに生まれ変わらせる取り組みのことです。単なるリサイクルとは異なり、創造性やデザイン性を加えることで、新たな魅力を持つ製品として再生させる点が特徴です。

たとえば、当社のデジタルファブリケーション施設を見学されたことをきっかけに、奈良県の木材卸業者と連携し、吉野杉の端材を活用したインテリア商品の企画・販売を行っています。また、市内の酒屋と協力し、廃棄予定だった酒瓶を再利用したインテリア商品も開発しました。これらの商品はいずれも非常に好評で、特に酒瓶を使った商品は数量に限りがあるものの、オンラインに掲載すると即日完売するほどの高い人気を集めています。

今後の展望

こうした取り組みを通じて、今後はサーキュラーエコノミーの考え方を取り入れながら、地域資源を活かした持続可能なものづくりをさらに広げていきたいと考えています。私たちの強みであるデザイン力とデジタル技術を活かし、地域の人材や技術を活かし、新たな価値を創出していくことこそが、これから私たちの使命だと考えています。

**D
A
T
A** 代表者：美安 良一
事業内容：表札・エクステリア商品の製造・販売
所在地：姫路市西今宿1-3-17
TEL：079-293-8673
HP：<http://www.hironocraft.com>

湯地 YUJI
江濱 EHAMA

主力製品のオーダーメイド表札



デジタルファブリケーション施設



空き瓶の植物の器



吉野杉端材をアップサイクルしたオーナメント